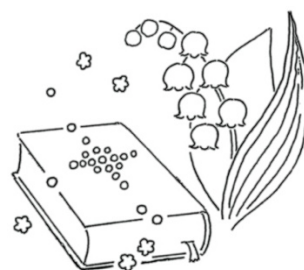


☆☆図書室だより☆☆ ☆第35号☆

☆☆- 図書委員会よりお知らせ -☆☆



書名 (購入書)	著者名・出版社・発行
聖書の50人：語り継がれる神と人間の物語	ジャン・ピエール・イスブ 著 日経ナショナルジオグラフィック社 2020/1/12 [橙 193 I]
鑑賞のためのキリスト教美術事典	早坂優子 著 視覚デザイン研究所 2011/3/15 [茶 196.7 Ha]
聖書の植物よもやま話	堀内昭 著 教文館 2019/5/30 [橙 193.04 Ho]
イエス	シャルル・ペロ 著 支倉崇晴 堤安紀 訳 白水社 2015/5/20 [赤 192.8 Pe]
ルカのクリスマスケーキ	フランチェスカ・ボスカ(文) ジュリアーノ・フェッリ(絵) いずみちほこ(訳) いのちのことば社 2005/11/11 [黒 726.6 Bo]
わたしの信仰 キリスト者として行動する	アンゲラ・メルケル 著 フォルカー・レージング 編 松永美穂 訳 新教出版社 2019/7/16 [青 198.24 Me]
「健康な教会」をめざして その診断と処方 現代の教会を考えるブックレット；1	越川弘英 編 関谷直人 著 キリスト新聞社 2007/9/25 [茶 195 Ko 1]
牧会ってなんだ？ 現場からの提言	越川弘英 編著 今橋朗 他 著 キリスト新聞社 2014/10/24 [茶 195 Ko 2]
	〃；2
宣教ってなんだ？ 現代の課題と展望	越川弘英 編著 石田学 他 著 キリスト新聞社 2012/5/23 [茶 195 Ko 3]
	〃；3
礼拝改革試論 みんなで礼拝を創るために	越川弘英 編著 荒瀬牧彦 他 著 キリスト新聞社 2019/9/25 [茶 195 Ko 4]
	〃；4



ご紹介本

棚村重行 東京神学大学特任教授

『聖書の50人：語り継がれる神と人間の物語』

2020/1/12 [橙 193 I]

ジャン・ピエール・イスブ 著 日経ナショナルジオグラフィック社

「旧新約聖書の内容や地理的な背景を知りたい。更に聖書の人物を描いたキリスト教美術も鑑賞し、聖書考古学の成果も知りたい」。こんな欲張りなあなたに打ってつけの本が本年一月に刊行されました。それが本書です。

あなたの旺盛な要求に応えるべく、本書は第一章「創世記と出エジプト記」、第二章「古代イスラエル」、第三章「新約聖書」という章立てで、アダムとイブから旧約人へ、主イエス、使徒パウロと弟子テモテまで五十人の人物が織りなすドラマを描いてくれます。古今の聖書画に加えて、レンブラントの諸作品が深みを与え、十戒を掲げるモーセ、ダビデを妬むサウル王、都の陥落を嘆く預言者エレミヤの姿が心に迫ります。メシア・イエスの若々しい肖像からは神人キリストへの画家の信仰が偲ばれ、幼いテモテが祖母と聖書を一緒に読む絵からは将来のキリスト教の発展が示唆されます。この一冊で、聖書を視覚的に味わう醍醐味をあなたも経験できるはずです。

書名 (ご寄贈書)

著者名・出版社・発行

復讐の詩編をどう読むか	E.ツェンガー 著 佐久間勳 訳 日本キリスト教団出版局 2019/9/25 [黄 193.33 Ze]
神の壮大な計画 創世記37～50章による説教	松本敏之 著 キリスト新聞社 2019/12/10 [緑 194.21 Ma]
祈りと経営 小倉昌男 ヤマト「宅急便の父」が闘っていたもの	森健 著 小学館 2019/11/1 [青 198.24 Mo]

書名 (購入書)	著者名・出版社・発行		
ユダヤ教とキリスト教	上智大学キリスト教文化研究所編	リトン	2019/10/15 [黒 199.04 Jo]
聖書を原語で読んでみてはじめてわかること	村岡崇光 著	いのちのことば社	2019/9/15 [橙 193.09 Mu]
キリスト教の“はじまり” 古代教会史入門	吉田隆 著	いのちのことば社	2019/10/25 [茶 198.1 Yo]
二つの宗教改革 ルターとカルヴァン	H.A.オーバーマン日本ルター学会 日本カルヴァン研究会	教文館	2017/10/31 [赤 193.04 Ho]
神の祝福をあなたに。歌舞伎町の裏からゴッドブレス!	関野和寛ロッケン牧師著	日本キリスト教団出版局	2019/10/25 [茶 198.34 Se]
銀幕 (スクリーン) の中のキリスト教	服部弘一郎 著	キリスト新聞社	2019/7/25 [黒 778.2 Ha]
戦時下のキリスト教 宗教団体法をめぐる	キリスト教史学会 編	教文館	2018/7/30 [赤 192.1 Ki]



『わが神、わが神 受難と復活の説教』

[緑 194 Ka]

加藤常昭 編

日本キリスト教団出版局

この本には15人の説教者による受難と復活の説教が収められ、その一つ一つに加藤常昭先生による説教者の紹介と説教の解説が加えられている。

左近淑先生は遠藤周作の「沈黙」から導き、十字架は最大の<神の沈黙>である、と説かれ、竹森満佐一先生は「主イエスは、ただひとり、自分の心を弱めるような薬物を一切除いて、完全に、その苦しみを、最後まで、なめつくされたのであります。」と語っておられる。植村正久先生はこの本の題になったイエス様の「わが神、わが神、なんぞ我を見棄て給いし」を、十字架の出来事を追いながら深く説かれ、村田四郎先生は文部省の教学局長から、キリスト教の復活信仰というような迷信は止めてもらった方がよかろう、と言われたことから説教を初めておられる。大村勇先生は新年度の阿佐ヶ谷教会の教会標語をもって説教を閉めておられる。

(シオン会 YK)



『暦とキリスト教』

[茶 196.44 Tus]

土屋吉正 著

カトリック淳心会 オリエンズ宗教研究所

『最後の晩餐の真実』

[橙 193.6 Hu]

コリン・ハンフリーズ 著 黒川由美 訳

太田出版

暦が、いかに、権威と表裏一体のものであるかを再認識する本2冊を紹介します。

「暦とキリスト教」はキリスト教の暦文化は、主の死と復活を毎週・毎年記念していこうという動機から生まれたという立場から、古代ヘブライ暦・ユリウス暦・グレゴリオ暦・週と安息日について等の解説がされています。復活祭の日取りの計算法が確立するまでの歴史や、他の教会暦についても詳しく述べられています。

逆に「最後の晩餐の真実」では、天文学とコンピューターを駆使し、当時の公式のユダヤ暦を復元することで、主の磔刑の年月日を知ろうとする試みがされます。また、最後の晩餐と逾越の食事の福音書間の差を使用した暦の差に求めています。共観福音書は公式ユダヤ暦以外のイエス様の用いた暦によるとして、その検証をし、最有力候補に、エジプトの太陰暦由来のモーセが啓示を受けたであろう一日が朝に始まる暦をあげています。

(ときわぎ会 Pi)